The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	故西村先生追悼祭並告別式記録
Author(s)	小沼, 量平; 岡田, 玄碩
Citation	懐徳. 1925, 2, p. 187-212
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88705
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

碩園先生輓詞

靜宇　葛城春成

忽聞急訃斷人腸、蒿里歌悲風雨傷、懷德堂中風化古、九重門裏藻葩香、終世學問千秋業、一代文章萬世光、惆悵英靈今已矣、聲名不朽幾星霜、

故西村先生追悼祭幷告別式記錄

懷德堂聽講生　小沼量平　岡田玄碩　記

左の前記は懷德堂記念會理事今井貫一懷德堂教授松山直藏兩先生の口述せられし所を筆錄せしものなり。

前　記

大正十三年七月二十九日、宮内省御用掛懷德堂記念會講師兼評議員從四位勳四等文學博士西村時彦先生卒す。是より先き、五月十一日先生は流行性感冒に罹られしが、病症急性肺炎に變じ、一時危篤に瀕せられしも、幸にして殆んど全治せしに、腦症の併發するあり。之が治療のため、七月十九日吳博士の音羽保養園に入園せらる。然るに復た肺炎を併發し二十九日朝に至り、病勢遽かに革まり、午後一時三十分療養竟に其効なく、溘焉卒去せられたり。遺骸は遺族親戚知友に護られ、下大崎の自邸に歸り、喪を發するの前、葬儀に關して議するところあり。會たま事を以て上京し、因りて先生の病を問はれたる

懷德堂記念會理事今井貫一君座に在りて、一己の私見として述べて曰く。先生は懷德堂に緣故最も深きのみならず、終始堂を顧念し、他日機を得ば、復び大阪に歸り、堂のために盡さんとの志あり。堂の同人も亦心窃かに之を期せしことなれば、先生の卒去に就ては、一層哀惜の情に堪へざるものあり。故に遺骨は之を懷德堂所在地の大阪に埋葬せられんことを望む。殊に先生は寧ろ大阪及京神方面に於て、最も多數の知人を有せらるゝことなれば、遺骨埋葬の機會を以て、懷德堂に於て追悼祭幷告別式を擧行せむことを欲す。幸に永田理事長其他評議員懷德堂記念會機關の同意を得ば、右の如く執行せむことを望む云云。一同感謝諒承するところあり。是日午後、先生危篤の電報永田理事長及教授松山先生の許に達するや、兩氏の間に、若し不幸にして萬一の事あらむか、先生は懷德堂を興すに與りて最も力ありたる功勞者なれば、之を堂葬に附せむかとの議出でしが、若し東京にて本葬の營まるゝことあらむには、懷德堂に於て追悼祭、告別式の如きを行ふこそ適當ならめ、上京の後、今井理事とも協議し、臨機適宜の處置を執ることに議を定め、松山教授は懷德堂を代表して、東上病を問はるゝことゝなりしが、其の出發せらるゝ時に、已に先生卒去の事新聞紙に報せらるゝを見たり。三十日夜松山教授は西村邸に着せられしが、恰かも納棺の式纔かに了りて、一同席に復りたる時なりき。教授は遺骸を拜せられし後、朝來同邸に在りたる今井理事と協議し、曩きに今井理事より私見として述べたるところ、偶たま在阪同人の意見と一致したれば、直ちに懷德堂に於ける追悼祭幷告別式執行に關して、兩人より懷德堂記念會の意見（理事會評議員會の議決を經て始めて確定すべきことを保留して）として提言せられたれば、遺族親戚及葬儀委員等皆大に滿足の意を表して同意せられ、葬儀の事は左の如く決定せられたり

八月一日午前七時三十分より神式を以て青山齋場に於て葬儀を執行し、同八時三十分より十時まで同所に於て告別式を行ひ、遺骸は桐ヶ谷火葬場に於て荼毘に附し、同十日遺族遺骨を奉じて大阪阿倍野塋域に歸葬す。同夜懷德堂に遺骨を奉安して聽講生等通夜翌日追悼祭幷告別式を執行し、終り

て後阿倍野に遺骨を埋葬す。

三十日午後一時三十分嗣子西村時敎、親戚西村康哉、高崎能樹、友人總代關屋貞三郎、河内禮藏、大久保利武、大阪懷德堂總代永田仁助の名を以て喪を發せらる。

二十九日夜、宮廷より御見舞として御菓子壹折を下賜せらる。又先生危篤の趣　天聽に達し、同日特旨を以て從四位に叙せらる。三十日先生御用掛在職中の功を勸せられ、勳四等に叙し瑞寶章を授けられ尙ほ明三十一日午前十時三十分西村邸へ勅使差遣の旨、宮内大臣より通牒あり。三十一日朝勅使落合侍從、邸に臨み幣帛幷祭粢料金壹封を下賜せらる。

三十一日夜棺前の祭あり。八月一日午前六時三十分遺族親戚知友等の告別終りて出棺。同七時三十分青山齋場に於て、神田明神社社司平田盛胤氏祭主となり、葬儀執行せらる。續て告別式同八時半より十時に至るまで行はれしが、各種の方面に於ける知名の士の參拜する者、陸續絶えず。其數無慮五百名に及びしと云ふ。十時告別式終了直ちに遺骸を桐ヶ谷火葬場に送り、荼毘に附す。

松山敎授は三十日は遺骸の前に通夜を勤められ、八月一日柩車に隨ひ、青山齋場に至り、葬儀幷告別式に參列せられたり。永田理事長は聽講生總代太田勘兵衛を伴ひ、三十一日上京、一日の告別式に參列せられたり。

本　記

八月三日

午前十時、懷德堂記念會理事會開かる。西村先生遺骨は嗣子時敎君捧持し、未亡人親戚等附添ひ、八月十日朝特急列車にて東京驛發、同夜八時十五分大阪驛着、翌十一日阿倍野墓地埋葬のことに決定せられしに付、曩に東京西村邸に於て今井理事松山敎授協議の上、提言せられたる懷德堂に於ける追悼祭幷告別式執行の件を附議し、異議なく決定せり。午後一時、堂友會幹事小沼量平、岡田玄碩、太田勘兵衛、飯島溜三郎、平野得三、堂友會員有志者野口幸雄、井上正美、山本楢信、中川幸三、今川せい登堂出席、臨時幹事會を開き、五日夜堂友會臨時總會を開くことを決定し、堂友會員に其旨通知せり。事畢りて一同理事會に出席し、追悼祭告別式遺骨出迎阿倍野墓地埋

葬に關する一切の事項を協議し、左記の次第書及係員役割を定め、直ちに準備に着手せり。

故西村先生追悼祭告別式次第書

追悼祭告別式係員役割

一、御遺骨御着の儀

一、大正十三年八月十日午後八時十五分今井委員長大阪驛に出迎ふ。

一、同八時二十分自動車にて大阪驛發同三十分懷德堂御着

此の日堂友會員及聽講者は午後七時迄に懷德堂に參集のこと

一、聽講者總代として飯島溜三郎、小沼量平、平野得三、野口幸雄、井上正美、山本檜信中川幸三、今川せい大阪驛に奉迎のこと

一、御遺骨御着堂の際堂友會員一般聽講者一同は懷德堂正門より玄關前に至る兩側に整列し奉迎のこと

一、永田理事長、松山教授は御遺骨を玄關に出迎ふ御遺骨捧持の爲め岡田玄碩附添ふこと

一、嗣子西村時敎氏御遺骨を捧持し遺族親戚と共に今井委員長の先導にて玄關に登り此處にて御遺骨は岡田玄碩に捧持せられ永田理事長、松山教授に前後を護られて祭壇上に安置せらる

一、堂友會員一般聽講者其他參會者は式場係の指定せる位置に着席す

一、奉安の儀

一、献饌　祭典掛岡田玄碩、山本檜信、中川幸三、飯島溜三郎、野口幸雄、井上正美奉仕す

一、永田理事長神靈に對し申告

一、參列者一同拜禮、了て退場

一、御通夜の儀

申告拜禮後小講堂に參集し左の四班に別ち奉仕す

第一班　申告拜禮後より　午前零時迄
第二班　午前零時より　午前三時迄
第三班　午前三時より　午前六時迄
第四班　午前六時より　午前七時半迄

靈前奉仕は堂友會員聽講者にて勤め四名つゝ一

時間交代のこと

一、祭典の儀

追悼祭　十一日午前七時三十分、神官執行

一、告別式の儀

告別式　十一日午前八時三十分より十時迄

一、埋葬式の儀

一、午前十時五十分御遺骨懐德堂御出發（自動車）

一、午前十一時二十分阿倍野墓地御着

一、午前零時三十分埋葬式終了、關係者一同懐德堂に歸還

一、午後一時懐德堂に於て直會の後散會

一、總務係

記念會理事　小倉　正恒　　仝　阪上　仲輔　　仝　今井上　貫一

記念會幹事　岡野　廉平　　記念會書記　藤塚　誠二　　堂友會幹事　小沼　量平

二、祭典係

教授　松山　直藏　　記念會幹事　成田　軍平　　朝日新聞社記者　後醍院正六

舊懐德堂同窓會員　大町　彰　　堂友會幹事　岡田　玄碩　　仝　飯島溜三郎

記念會幹事　成田　軍平　　懐德堂講師　財津　愛象　　朝日新聞社記者　後醍院正六

舊懐德堂同窓會員　大町　彰　　堂友會員　野口　幸雄

四、接待係

記念會理事　小倉　正恒　　記念會幹事　成田　軍平　　懐德堂講師　稲束　猛

堂友會員　井上　正美　　仝　今川上　せい

五、調度係

記念會幹事　岡野　廉平　　記念會書記　藤塚　誠二　　堂友會幹事　太田勘兵衛

六、會計係

記念會理事　今井　貫一　　記念會幹事　岡野　廉平　　記念會書記　藤塚　誠二

七、庶務係兼車輛係

記念會幹事　岡野　廉平　　記念會書記　藤塚　誠二　　堂友會幹事　岡田　玄碩

堂友會員　山本　楢信

八、新聞記者係

懐德堂講師　稲束　猛　　堂友會幹事　平野　得三　　堂友會員　中川　幸三

追悼祭祭儀の事に付大町彰氏に委員を囑託し、同

氏の來會を求め、同夜松山教授は大町氏同道、北區天滿宮に至り、社司寺井種臣氏に面會を求め、祭主を依囑せらる。寺井社司西村先生と生前親交ありし故を以て、特に祭主たることを承諾せられたり。

八月四日

午後七時懷德堂記念會評議員會開かる理事者は昨三日理事會に於て議決せられたる西村博士追悼祭幷告別式の件を提案し承認を求めたるに、異議なく可決せられたり。

尙新聞紙廣告案に就て、一般の人々より寄贈の供華供物等は式場狹隘に付辭退する旨附記する方可然との議出て、左案の如く廣告することに議決せられたり。

本會講師、評議員文學博士故西村時彥先生遺骨埋葬式當地に於て執行相成候に付本堂に遺骨奉安來る十一日午前七時半より神式追悼祭引續八時半より十時まで告別式執行致候に付此段謹告仕候

八月八日

東區豐後町

懷德堂記念會理事長　永田仁助

追て此廣告を以て御通知に代へ申候猶式場狹隘に付供華供物等は御辭退申上候

右廣告は大阪朝日新聞、大阪毎日新聞、大阪時事新報の三新聞紙八日の朝刊に掲載すること、尙左案廣告を告別式終了の後ち、前記三新聞紙十一日の夕刊に掲載することに決せらる。

故西村時彥先生追悼祭及告別式執行の際は炎暑の折柄にも不拘御參會被下難有存候乍畧儀紙上を以て御禮申上候

懷德堂記念會

午後七時半より堂友會幹事幷に有志者委員等登堂

諸種の準備を進め、尙堂友會幹事は前記三新聞紙八日の朝刊に左案の廣告を掲載することを決議せり。

來十一日懷德堂に於て故西村先生の追悼祭並に告別式執行せられ候に付舊聽講者諸君御參拜相成度候

懷德堂堂友會

同夜天滿宮社掌渡邊信一氏の來會を請ひ、又葬儀請負者を招致して、祭壇並に堂の內外に係る設備方法に付打合せを爲したり。

八月五日

午後七時半より堂友會臨時總會を開く。松山會長より追悼祭並に告別式に各位の協力を望む旨を述べられ、他に要務あるため退席せらる。後ち協議の上各係の分擔を定むること左の如し。

故西村先生追悼祭告別式堂友會役割表

委員長　今井　理事

總務　武內　講師　小沼　量平

八月十日御遺骨大阪驛へ御着の際代表出迎者

飯島溜三郎　小沼　量平　平野　得三
野口　幸雄　井上　正美　山本　楢信
中川　幸三　今川　せい

堂前受附

井上　恂　城野　雄介　長澤　薰次

（參列の各員は午後八時二十五分までに整列）

堂玄關出迎者

玄關侍立者龍見竹之助

永田理事長

御遺骨捧持者　岡田　玄碩　副員　野口　幸雄

松山　教授

堂內侍立者

岩淵　賢治　不破　重三

御遺族接待係

今川　せい　今川　ふさ　林　滿子

役員接待係

平野　得三　中川　幸三

奉安之儀

献饌　岡田　玄碩　野口　幸雄　井上　正美
飯島溜三郎　山本　楢信　中川　幸三

御通夜之儀（受付及接待係は各班毎に担當のこと）

一班　井上　恂　城野　雄介　石川　安吉
竹内　峯二　不破　重三
二班　飯島溜三郎　長澤　薫次　今川　せい
山本　楢信　平野　得三　中川　幸三
三班　岩淵　賢治　吉田　清德　岡田　玄碩
太田勘兵衛　野口　幸雄　今西　茂喜
四班　小沼　量平　竹田　義一　龍見竹之助
河越　經信　井上　正美

十一日追悼祭告別式之儀

受附　飯島溜三郎　井上　正美　太田勘兵衛
龍見竹之助　中川　幸三　井口金次郎
（此外庶務係も加はること）

式場係　野口　幸雄　山本　楢信
弔辭捧讀　小沼　量平
玉串奉獻　飯島溜三郎

侍立　一、吉田清德　二、不破重三　三、今西茂喜
四、石川安吉　五、長岡義卿　六、内村九一

神官接待係　岩淵　賢治

埋葬式參列者　小沼　量平　岡田　玄碩　野口　幸雄
井上　正美　平野　得三

（此の外の幹事、委員は殘留して直會場の整頓準備に從事し、引續き其の接待係に當ること）

各係員は執役の經過を總務係（小沼幹事）に報告すること

永田理事長登堂。來る十日御遺骨大阪驛に御着の際、驛に於ける諸事に對し便宜を與へられたき旨の大角大阪驛長宛の依頼狀を作製し、驛に對する交渉委員中川幸三野口幸雄に交付せられたり。

八月六日

松山教授、今井理事、藤塚書記登堂。追悼祭並に告別式に關する順序、其他を新聞紙雜報に掲載せられ

度旨の依頼狀及草案を作り、明朝藤塚書記の手に於て謄寫版摺と爲し、市内各新聞社に依頼せり。其の文案左の如し。

拜啓故文學博士西村時彦君逝去につき去一日東京に於て葬儀を執行相成次で來る十一日遺骨を阿倍野西村家墓地に埋葬せられ候に就て博士は本會創立以來理事講師又は評議員として熱心盡力せられたる功勞者に有之候に付當地埋骨を機會に本會役員相謀り西村氏遺族に請ひ本會講堂に於て別紙の通り追悼祭並に告別式執行致候就ては貴紙御餘白に右祭式の次第御記載被下候へば廣く故人の知友に告知することゝ相成仕合不過之候依て右御願旁得貴意度如此御座候　敬具

大正十三年八月七日

懷德堂記念會理事長　永田仁助

大阪（何々）新聞社御中

故文學博士西村時彦君追悼祭並に告別式

一、故西村時彦君遺骨は令嗣時敎君未亡人幸子其他親戚の人々捧持八月十日特急にて東京發午後八時十五分大阪驛着、翌十一日阿倍野西村家墓地に埋葬す

一、懷德堂に於ては遺骨を大阪驛より直に堂に迎へ翌十一日追悼祭並に告別式を執行す

一、遺骨大阪驛に着の際は懷德堂より小倉今井兩理事成田幹事聽講生數名代表者として驛に出迎へ遺骨並に遺族を懷德堂に案内、懷德堂に於ては役員聽講生一同門内に列立之を迎ふ

一、遺骨懷德堂に着すれば永田理事長松山教授及び聽講生總代玄關に於て遺骨を遺族より受け直に祭壇に安置し献燈、献饌、永田理事長より神靈に明日追悼祭告別式を行ふ旨申告し一同拜禮

一、右終りて遺族は旅館に送り、堂に於ては聽講生總員にて交代通夜

一、追悼祭は十一日午前七時三十分より神式にて執行引續き八時三十分より十時まで故人知友の告別式を行ふ、知友諸君の追悼祭に參列せらるゝことは隨意

一、右終つて午前十時五十分遺骨懷德堂發阿倍野墓地に送り西村家に於て埋葬の儀を行ふ

一、懷德堂執行の追悼祭に對し住友男爵其他故人知

友より供花供物の申出ありしが式場狹隘のため何れも其厚意を謝して之を辭退せり

此夜、野口幸雄平野得三登堂。懷德堂評議員（二十一名）京都帝國大學總長及教授（教授は懷德堂講師として關係ある方）（二十八名）中川大阪府知事、關大阪市長、大阪朝日新聞社、大阪毎日新聞社、大阪時事新報社、關西日報社、大阪日日新聞社、大阪都新聞社、大阪朝報社、大正日日新聞社、大阪今日新聞社、新日報社の十新聞社々長、池松京都府知事、池上前大阪市長、府學務課長安原舜一、市教育部長小畑富記、川上梅子、中井木菟麿、伊藤顧也、舊懷德堂門人（八人）等に發すべき通知書の封筒を認めたり。之れは八日を以て發送すべきものを豫め準備せしなり。續て兩委員は掲示、立札、其他の諸標示を書せり。

通知文は黑枠附活版摺にて、左の如し。

拜啓本會講師評議員文學博士故西村時彦先生遺骨埋葬式當地に於て執行相成候に付本堂に遺骨奉安來る十一日午前七時半より神式を以て追悼祭引續き八時半より十時まで告別式執行致候に付此段御通知申上候

八月八日

大阪市東區豐後町

懷德堂記念會理事長　永田仁助

八月七日

此の夜、委員中川幸三、野口幸雄兩名永田理事長の依頼狀を携へ、梅田に大角大阪驛長を訪ひ、遺骨捧持の通路、出迎者名刺受付所の設置場所等を交渉し、通路は一二等待合室を通過すること、受付所は一二等待合室の入口に設置すること等の便宜を得たり。

八月八日

午後七時三十分、永田理事長、今井理事、成田幹事及び堂友會幹事、有志堂友、登堂。傭人夫をして

晝間施行せしめたる堂内外の掃除の點檢を爲し、終て準備事務並に習禮を行ふ。

八月九日

午後一時、松山教授、今井理事、藤塚書記及び堂友會幹事、堂友有志登堂して諸般の準備を進行す。永田理事長夕景より來堂せられ式場設備に從事せる委員諸氏に對し其の勞を犒らはる。

本日種ケ島同郷會代表平山友賢氏（朝日新聞社内の人）來堂、供華並に通夜のことを今井理事迄申込まれたり。然れども式場狹隘なるを以て、供華は之を辭退し、通夜のみ快諾せり。

大阪朝日新聞社より供華の申込あり。一度は辭退せしも、更に懇請せられ、故人と同社とは特別の關係あるを以て、事情難默止、今井理事成田幹事協議の上、特に承諾することに決し、追て永田理事長の承認を受くることゝせり。

午後二時、大阪朝日新聞社後醍院正六氏銅板壙志及び大阪朝日新聞社より懷德堂に寄贈せられたる西村先生寫眞額面、大江氏寄附の西村先生手稿懷德堂記念會趣旨額面を携へ來り、控所に陳列せらる。

八月十日

午前八時、永田理事長其他委員一同登堂。祭壇及堂の内外設備に從事し、午後二時、設備全く終了整頓せり。

遺骨奉迎

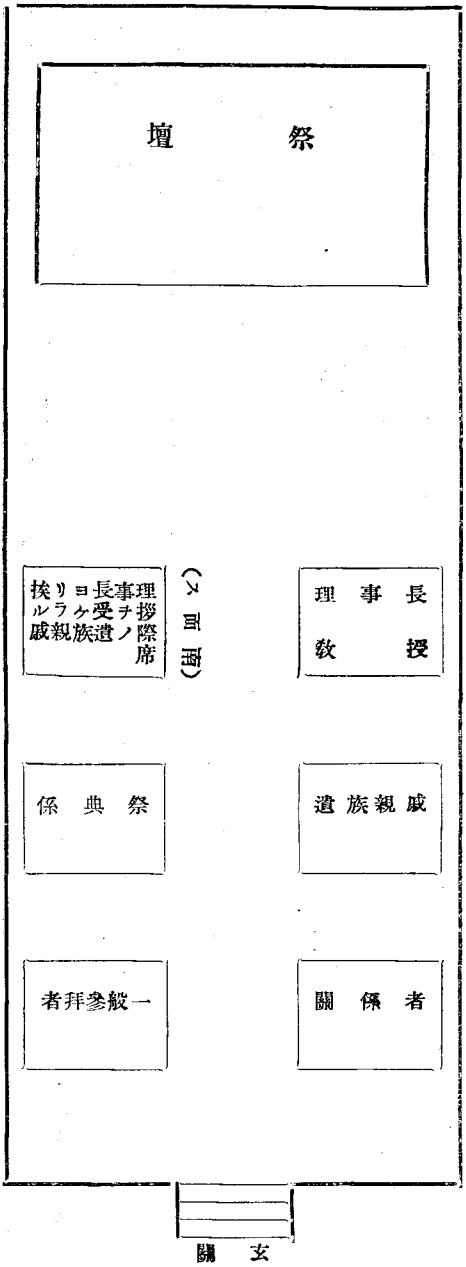
午後七時前、永田理事長以下委員聽講生並に有志一同登堂。同七時半、今井、小倉兩理事、成田幹事は記念會を代表し、堂友會よりは小沼、飯島、平野の三幹事、野口、井上、山本、中川、今川せいの五委員は聽講者を代表し、御遺骨奉迎の爲め、大阪驛に赴けり。尙一般出迎者の爲め、堂友會委員は驛内に受附所を設け、名刺を受領せり。

午後八時十五分、御遺骨大阪驛御着。喪主西村時敎氏未亡人幸子外親戚四人附添ふ。今井理事列車内に入り、挨拶を述べ、喪主其他を案内して降車すれば、大角大阪驛長は先づ之を迎へ、先導して一、二等改札口より出づ。御遺骨は喪主に捧持せられたる儘、未亡人附添ひ、驛の玄關車寄にて自動車に乘る。懷德堂、朝日新聞社、同郷會其他多數出迎者と同列にて、懷德堂に向ふ。先導第一自動車には小倉理事、

成田幹事、親戚高崎殿、成安殿、第二自動車には御遺骨、西村時敎殿、未亡人幸子殿、第三自動車には親戚弓削田殿、西村康哉殿、今井委員長、岡野委員、第四自動車には堂友會委員飯島溜三郎、小沼量平、平野得三、野口幸雄、第五自動車には堂友會委員井上正美、山本檜信、中川幸三、今川せい乘車し、朝日新聞社同郷會其他多數の自動車之れに續き、八時三十五分懷德堂に着せり。關係者一同、聽講生並に有志者は既に門内左右に整列し、敬禮以て御遺骨を奉迎せり。

御遺骨捧持者、未亡人、親戚の方は今井委員長の先導にて堂に上る。永田理事長、松山敎授、堂友會幹事岡田玄碩堂内にて之を迎へ、岡田幹事は更に一歩前進して、喪主より御遺骨を拜受し、是を捧持す。理事長、敎授前後を護りて祭壇に上り、御遺骨奉安臺上に安置し、敬禮して降壇す。

正門内奉迎者は龍見委員の指揮に依り、御遺骨の進むに隨ひ、十歩の間隔を取りて、堂内に入り、指定の位置に就く。諸員の位置左圖の如し。



次で祭典係岡田玄碩獻燈、飯島溜三郎、野口幸雄、井上正美、山本楢信、中川幸三獻饌（供饌三種）を奉仕す。懷德堂記念會役員より菓子二臺、堂友會より果物一籠を獻ず。

是に於て、永田理事長より神靈に申告の儀あり。告靈の辭左の如し。

此度、先生御遺骨當地阿倍野西村家御墓地に御埋葬相成りますにつきましては、懷德堂創立以來先生が本堂に寄與せられました至大なる御勞績を追想致しまして、本堂關係者一同洵に哀悼に堪へません。依りて御遺族に請ひ、御遺骨を本堂に奉安し、當夜は先生の敎を受けましたる聽講生を始め其他の人々御通夜を致し、明朝追悼祭を、引續き當地方の先生御知友のために、告別式を執行致します。右謹んで神靈に申し上げます。

次で遺族親戚の位置を南向側面に換へ、永田理事長之れに對して立ち、懷德堂を代表して挨拶を述ぶ。

弓削田精一氏遺族親戚を代表して、答禮の挨拶あり。次で遺族は北小講堂に入りて休憩し、暫くして旅宿に引取らる。

一般參列者も隨時辭去せられたり。

遺骨奉安の後、堂友會員、種ヶ嶋同鄕會員、其他有志に依り、左の四班に分ちて、通夜の禮を行ふ。此夜、伊勢に歸省中の武内講師も來りて遺骨を迎へ通夜の禮に加はらる。

第一班　井上　恂　城野　雄介　石川　安吉
竹内　峯二　不破　重三　平山　友良
大山　雅也　前田　幸麿　小原　道安
笹川　滿堯　長澤　薫治　市丸　有二
宮浦　要　平山　武仲　前田　荻野
平山　友賢　長山　榮一　羽生左司馬
浦内　久彦　榎本　龍也　松山教授夫人
武田　又男　西村　時成　鹿田　靜七

第二班　武内　講師　今川　せい　飯島溜三郎
山本　楢信　平野　得三　中川　幸三
吉田　清德　岡野　廉平　石井　宗一
外に同鄕の方十二人

第三班　岩淵　賢治　吉田　清德　岡田　玄碩
野口　幸雄　今西　茂喜　太田勘兵衛
藤塚　誠二　長岡　義卿　今川　ふさ

第四班　井上　正美　竹田　義一　河越　經信
小沼　量平　龍見竹之助

右の内岡田、太田、中川、平野、今川せいの五名は終夜勤修せり。

八月十一日

午前七時、祭典係に依りて、前夜の供饌を撤せらる。其前後遺族、懷德堂關係者並に一般參列者陸續として參着す。午前七時三十分、寺井種臣氏祭主となり、外に神官三員、伶人三員にて追悼の祭典を行ふ。其式次第左の如し。

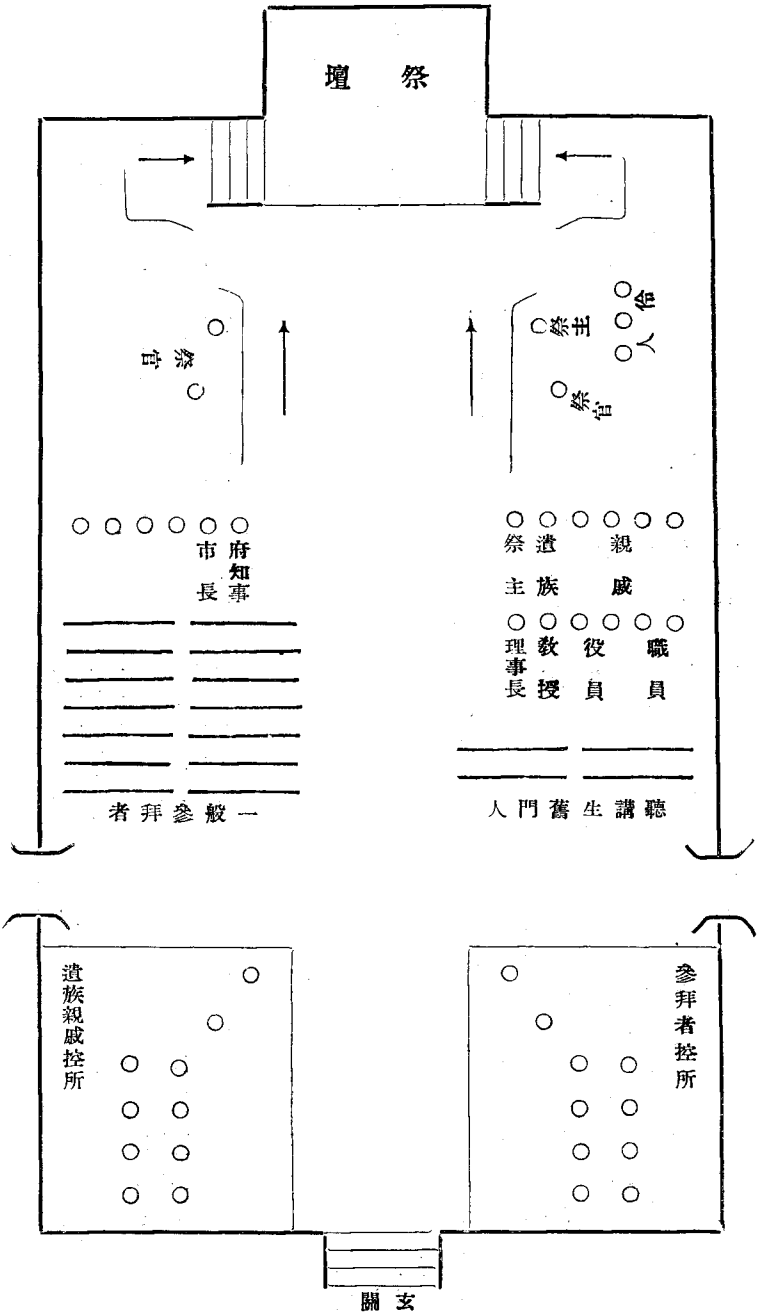
追悼祭式次

一、午前七時三十分　一同着席（擊柝）
一、修祓獻饌
一、祭主祭文
一、理事長祭文
一、敎授弔辭
一、聽講生總代弔辭　（小沼　量平）
一、舊懷德堂門人總代弔辭（神山　鈴一）
一、大阪府知事弔辭
一、大阪市長弔辭
一、玉串捧獻
一、理事長
一、敎授
一、喪主
一、遺族、親戚
一、記念會役員總代　（村山　龍平）
一、聽講生總代　（飯島　溜三郎）
一、參列者

（式場畧圖次頁の如し）

告詞

是乃懷德堂乃敎場乎靈時止定来置伎奉利座世奉留從四位勳四等文學博士西村時彦主乃神靈乃前爾天滿宮乃社司寺井種臣謹豆白左久汝命乃由久利無久身退給比豆過志八月一日東京乃青山乃葬場爾惜志伎御別乎告奉利大宮內與利御使乎賜利百官人等毛參群比最毛畿爾事竟豆昨日乃夜嗣子時敎主幸子刀自內族後醍院正六等御柩乃御尾先乎守護利東京乃御館與利是乃浪花爾下利今日波攝津國安部野乃與津棄戸爾御骸乎藏志奉留爾依豆暫志此乃齋床爾座世奉利現世爾座志々時是乃懷德堂爾關係良比豆年月麻根久御心盡乃事蹟乎思比偲邊留理事長永田仁助主等事執



持豆御功績乃千重乃一重乎報比奉耳奈止關係乃輩等今日乃御葬爾波漏自後禮自止馳集布人等乃齋場毛狹爾人垣成豆參拜美惜美奉利悲志美奉留狀乎御心平爾受聞志豆奉留御饗止御饌備倍齋賀据倍海津物種々菓左倍取添倍奉利豆汝

命我在志世乎思續氣豆一向爾戀奉利謹奉留狀乎青垣作須杉乃若葉由御曾奈波志聞食志豆諸人等我捧奉留玉串爾御心乎慰米給比安久穩支久聞食世止哀久母言竟奉良久止白須

誄詞

是乃葬場爾參集倍留百官人等乎始米參群邊留人等諸聞食止白須

阿波禮從四位勳四等文學博士西村時彥主乃現世乃功績乎言舉志豆謹豆白左久神靈波鹿兒島縣乃武士西村城之助主乃眞名子爾志豆慶應元年七月廿三日鹿兒島縣熊毛郡北種子村爾生出座志歲三津爾志豆父乃命乃悲爾遇比母アサ子刀自乃愛志伎御心爾添比豆生立給比素與利天性聰久賢志久直久穩志久誠意乃風雅爾心細志久物乃憐乎深久悟利皇國典爾母心乎寄世漢書爾母深久涉利神乎敬比皇室乎尊牟志厚久親爾仕布留直心嚴志久正志久物學爾心乎潛米螢乎集米雪乎積牟勞乎母厭比給波須藩乃儒前田豐山主爾漢學乃教乎受氣大御代乎古爾返志給布明治九年與利種子島學校爾入利十三年四月東京爾遊學備重野成齋島田篁村主等爾物學奚志十六年東京大學古典講習科漢學科爾入利二十三年五月大阪朝日新聞社乃記者爾命世良禮二十五年福島少佐乃西比利亞騎兵旅行乃歸途乎浦鹽爾迎倍少佐與利親志久國見乃經過乎聽豆志我紀行文乎綴利新聞爾書伎連禰速久世人爾傳倍二十七年朝鮮國爾東學黨乃蜂起利世乃亂乃中爾毛速久京城爾渡利皇國止韓國清國止乃關係乎委細爾言舉志豆皇國乃國威乎宣言知志波誠爾御國乎思布深伎御心爾古曾三十年爾東京朝日新聞社主筆止命世良禮三十一年冬清國爾遊歷備四十三年歐洲諸國乎巡遊利大正五年大阪爾再比懷德堂乃礎乎定米先儒五井蘭洲翁乃功績乎世人爾言繼賀比語傳倍豆財團法人止成志懷德堂記念會乎起志志我理事止成利講師止任介豆孔孟乃道乎以豆時弊乎戒米人心乎善事爾導比伎給波牟深支御心爾奈毛同九月京都帝國大學文科大學講師爾任介良禮九年其乃職乎辭美大阪朝日新聞社乎退伎給比豆志我社員爾在留三十二年乃長伎年月乎累根給布間爾日本宋學史學界乃偉人南島偉功傳懷德堂考尾張敬公楚辭尙書研究等乃書乃數多久著志給比同五月文學博士乃學位乎授氣同六月公爵島津家臨時編纂所編纂長乎命世良禮十年八月三十一日宮內省御用掛仰付良禮十二年九月二十日正五位爾叙豆十三年一月十日御講書控乎命世良禮大內山乃松乃常盤止共爾御榮座須時爾忽爾御病乃厄弱給布事乎畏伎

雲乃上爾聞上豆七月二十九日從四位爾叙豆同三十日爾勳四等爾叙氣瑞寶章乎授介良禮大御手津物左倍賜利島津公爵與利毛厚伎御思召乎受介竟爾歸利來座左奴幽世乃神乃列爾奈毛入座奴彼禮懷德堂乃理事長永田仁助主等思議利豆此乃敎乃室乎葬場止定米靈祭志豆高伎勳芳志伎名乎稱倍一世乃事蹟乎委細爾言擧志豆齋主天滿宮社司寺井種臣告白須事乎諸聞食世止白須

祭文

維大正十三年八月十一日財團法人懷德堂記念會理事長永田仁助謹ムテ清酌庶羞ノ奠ヲ以テ本會講師兼評議員近故文學博士西村碩園君ノ靈ヲ祭リテ曰ク嗟天何ソ君ヲ奪フノ速ナルヤ君曩キニ同志ト胥議リ懷德堂記念會ヲ設クルヤ推サレテ委員長トナリ財團組織成ルヤ選ハレテ理事トナリ恒ニ率先事ニ當リ心ヲ悉シ慮ヲ竭シ奔走周旋幾ソト寢食ヲ忘ル懷德堂興リテ復タ絃誦ノ聲ヲ聞クモノ一ニ君ノ主持ノ力ニ是レ由ル堂興ルノ後自ラ進ムテ講師トナリ經ヲ執リテ堂ニ講シ詳說廣諭蒙ヲ發キ惑ヲ解キ聽ク者怡悅セサルハナシ大正辛酉召命ヲ蒙リ內廷ニ供奉スルニ及ヒ復講席ヲ掌ルコト能ハス然レトモ推サレテ評議員トナリ常ニ諮問ニ備ハリテ參畫怠タラス嘗テ曰ク他日聖恩閑ヲ賜フコトヲ得ハ必ス復タヒ此地ニ歸リ講學自ラ終ラムト誰カ思ハム旻天弔マス奄忽トシテ逝キ君ノ志復タ遂クル能ハサラムトハ嗚呼哀イ哉惟フニ本會ノ基礎今ヤ漸ク鞏固ヲ加フルモ事業ノ發展ハ則チ將來ニ期ス其君ノ力ニ需ツモノ彌々大ニシテ彌々多シ而カルニ今ヤ則チ亡シ嗚呼哀イ哉君ノ學純正ニシテ淹博君ノ文淵懿ニシテ朴茂洵ニ學界ノ耆宿壇坫ノ棟梁タリ而シテ國ヲ憂ヒ君ヲ思フノ情至リテ深ク居常慨然風敎ヲ振起スルノ志アリ當今耆宿凋落幾ント盡キ壇坫寂莫タリ是ノ時ニ當リテ君ノ若キモノ復タ見ルヘカラス是レ則チ國家敎學ニ損スルモノ多シ特ニ我懷德堂ノ不幸ノミニアラサルナリ嗚呼哀イ哉君今ヤ則チ亡シ我等當サニ駑鈍ヲ竭シテ以テ君ノ遺志ヲ成就スヘシ神其レ來格シテ永ク斯堂ヲ護レ嗚呼哀イ哉尙クハ饗ケヨ

弔辭

嗚呼子俊胡ソ遽カニ予ヲ棄テ、逝クヤ憶フ丙申ノ歲

予懷德堂記念會ノ聘ニ應シテ大阪ニ來ルヤ君予ヲ迎ヘテ手ヲ握リ一見舊ノ如シ自此シテ後日夕往來學ヲ論シ文ヲ問ヒ經ヲ執リテ同ニ堂ニ講シ席ヲ聯ネテ俱ニ會ニ談ス斯クノ如キモノ五年辛酉ノ冬君恭ク君命ヲ蒙リ入リテ制誥ヲ知ル是レヨリ東西ニ分處シ地百里ヲ隔ツレトモ尺素逾々數々シ情骨肉ノ如シ嘗テ予ニ語ケテ曰ク我已ニ瘞域一區ヲ阿倍野ニ買フテ百年ノ計ヲ爲セリ他日若シ休ヲ告ケ閑ニ退クコトヲ得ハ復タ經ヲ執リテ堂ニ講シ優哉游哉以テ餘生ヲ卒ヘンコト是レ我ノ素願ナリト　予君ノ還ルヲ望ムコト一日三秋ノ如クナリシニ云ニ胡ソ淑カラス奄忽トシテ亡ス嗚呼子俊胡ソ遽カニ予ヲ棄テ、逝クヤ今ヨリシテ後經義誰ト與ニ討論セン文史誰ニ商榷セン切切タル規益孰ニ從フテ蒙ケン溫溫タル笑語孰ニ從フテ聞カン嗚呼哀イ哉惟君少壯重野成齋中村敬宇島田篁村諸先生ニ從フテ學フ其學具サニ淵源アリ學成ルノ後報章ニ從事シ力ヲ當世ニ效スモノ三十年晩ニ心ヲ風教ニ留メ同志ト相謀リ懷德堂ヲ興ス意綱常ヲ扶植シ文教ヲ翊贊スルニ在リ堂ノ重建セラルルヤ先ツ之カ宗旨ト事業ノ大綱トヲ定メ以テ其根基ヲ立ツ今時師道頹廢復タ見ルヘカラス惟リ懷德堂能ク古道ノ一脈ヲ傳フルモノ皆君カ剏始ノ力ナリ惟君資性純孝友誼ニ篤シ予ノ始メテ大阪ニ來ルヤ予君ト同ク母アリテ子ナシ予カ母君カ太孺人ト年相若ケリ因リテ往來シ歡娛相俱ニス予君カ室人ト共ニ太孺人ヲ奉養シテ其至誠ヲ盡スノ狀ヲ觀テ未タ嘗テ赧然トシテ慙惕セスンハアラス予ヤ已ニ母ヲ喪セリ君ノ太孺人猶ホ堂ニ在リ齡八十有五奉養未タ終ヘスシテ身先ツ歿ス其遺憾何如ソヤ嗚呼哀イ哉惟君季年學純ラ程朱ヲ宗トシ而シテ醇粹正大文桐城ヲ師法シ而シテ渾厚雄偉　學問ニ兼ヌルニ文章ヲ以テスル君カ若キモノ當代匹儔ヲ見ル罕ナリ今君歿ス朝廷ノ文字誰ニ賴リテ之ヲ掌ラシメン後生ノ疑義誰ニ賴リテ之ヲ質サン斯人ノ殄瘁惟リ吾黨ノ不幸ナルノミナランヤ實ニ有邦ノ不幸ナリ嗚呼哀イ哉嗟天子俊ニ予フルニ瓌琦俊偉ノ才ヲ以テシテ胡爲レソ之ニ假スニ期頤耄耋ノ壽ヲ以セサル嗟天子俊ニ予フルニ純篤至孝ノ性ヲ以テシテ胡爲レソ之ニ假スニ年ヲ以テシテ其孝ヲ終ヘシメサル天意竟ニ知ルヘカラサルカ君ノ疾ムヤ宮中使ヲ遣ハシテ菓ヲ賜ヒ其疾亟カナルヤ特旨位ヲ進メ勳ヲ叙セラ

ル其葬ルヤ賻ヲ賜ヒ尋イテ又遺族ヲ撫恤セラル天恩優渥死シテ餘榮アリ君亦當サニ地下ニ感泣スヘシ嗚呼哀哉懷德堂敎授松山直藏謹ムテ衷曲ヲ紓ヘテ以テ哀ヲ致ス神其レ知ルアラハ昭鑒セヨ

弔辭

懷德堂講師文學博士從四位勳四等西村碩園先生邊ニ館舍ヲ捐ツ嗚呼哀哉顧ミレハ大正六年一月懷德堂始メテ定日講義ヲ開カル、ヤ先生溫乎トシテ講筵ニ涖ミ先ツ曾子大孝篇ヲ講セラル義理ヲ說クコト諄々トシテ啓發スル所アリ滿堂肅然傾聽ス深ク諸生ノ腦裏ニ印象ヲ刻セシモノ、如シ當時ノ光景今尙眼前ニ髣髴タルヲ覺ユ爾來後學ノ修養ニ益アルモノヲ捃摭シテ經子簡編ト名ツケ之ヲ講明セラル、コト約ソ一年有半次テ孟子及詩經ヲ講セラル此等ノ書ニ對スル每ニ未タ嘗テ先生ノ音容ヲ想望セスムハアラス先生學德共ニ高ク文章當代ニ冠タリ諸生皆ナ先生ノ講筵ニ參シ其風貌ヲ拜スルヲ以テ榮トセリ大正十年秋先生朝廷ニ召サレテ內大臣府ニ奉仕セラル然レトモ尙時ニ書ヲ寄セテ諸生ニ學ヲ奬メ道ヲ說クコト懇切至ラサル所ナシ正ニ宜シク蟠桃ヲ獻シテ鶴算ノ長カラムコトヲ希フヘキニ何ソ圖ラム白玉樓成テ俄カニ天ニ召サレタマヒ幽明處ヲ異ニス嗚呼哀哉

大正十三年八月旬一　懷德堂聽講生總代

正七位勳六等　小沼量平

悼辭

大正十三年八月十一日故西村時彥先生ノ追悼祭ヲ先生ノ緣尤モ深キ此ノ懷德堂ニ於テ擧行セラル、ヤ生等本堂ノ先天的舊門下八名ヲ代表シテ茲ニ靈前ニ肅拜スルヲ得恭ク辭ヲ陳シテ曰ク

先生幼ニシテ經ヲ藩侯ノ前ニ披講シ壯ニシテ文名ヲ屑屋ノ籠ニコメ佳人ノ奇遇ニ際會シ更ニ臺灣入常陸丸等ヲ琵琶ニ由リテ之ヲ鼓吹セラレ遂ニハ世道ノ爲ニ專ラ經學ノ研究ニ心ヲ潛メラレテ懷德堂考ノ大著ヲモノシ其ノ懷德堂ノ復興ニ心血ヲ傾注サレシ效アリテ大大阪ヲシテ再ヒ此ノ儼然タル學府ヲ見ルコトヲ得シメタルハ好シ志士ノ贊襄ニ與カル所アリト雖モ而モ職トシテ之ヲ先生ノ力ニ歸セサルヲ得ス且先生大阪朝日新聞ニ文筆ヲ揮ツテ社會ノ進步ヲ促サル

、コト三十年大正九年文學博士ト爲リ京大ニ教鞭ヲ執リ十一年宮内省ニ入リ御上ユリノ文章ハ多ク先生ノ手ヲ經タルモノト拜察サレテ益天下ノ敬仰ヲ大ニシツ、先生ノ學ト德トヲ以テ上ニ下ニ明治大正ノ文化ニ關スルコト此ノ如シ豈毅然タル大人ナラスヤ而シテ今ハ既ニ幽明ヲ隔ツ惜哉先生七月三十日ヲ以テ東京ニ瞑シ月ヲ越テ今遺骨ヲ此ニ迎ヘ奉リ生前大人格ノ結晶タル此堂中ニ於テ親シク追悼ノ祭典ニ參シ恭シク辭ヲ薦ム嗚呼哀哉神靈冀クハ髣髴トシテ舊門下ノ誠衷ヲ享ケヨ

大正十三年八月十一日

懷德堂舊門下八名代表

堺方違神社社司　神山鈴吉

弔辭

維時大正十三年八月十一日大阪府知事從四位勳二等中川望謹ミテ故文學博士西村碩園君ノ靈ニ白ス君身ヲ隅州ノ海島ニ起シ業ヲ東都ノ鴻儒ニ受ク學經史百家ニ亘リ文屈宋馬楊ノ神ヲ傳フ乃チ聘ニ應シテ觚ヲ大阪朝日新聞社ニ操ル或ハ世ヲ警メテ字々風霜ヲ挾ミ或ハ思ヲ陳ヘテ篇々芳華ヲ吐ク旁友ヲ聯ネ社ヲ設ケテ文ヲ論シ詩ヲ品ス阪地ノ文學是ニ於テカ鬱トシテ盛ヲ稱ス君又意ヲ風教ノ維持ニ注キ之ヲ同志ニ謀リテ懷德堂ノ廢ヲ興シ自ラ經ヲ執リテ壇ニ講ス義證精博引喻剴切聽者心會自得セサルナシ德化ノ源泉滾々トシテ湧クカ如シ大正十年徵命ヲ蒙リテ内廷ニ奉仕スルヤ王度ヲ潤色シ德音ヲ宣揚ス其任重シトイフヘシ而シテ君畢生ノ事業モ此ニ於テ全カラムトス然ルニ昊天何ノ意ソ忽トシテ帝旁ニ召ス痛恨何ソ堪ヘム君此地ニ在ル實ニ三十年志操高潔ニシテ公明正大其人ニ接スルヤ和氣靄然後進ヲ誘導スルヤ愛撫扶掖至ラサルナシ故ニ人皆君ヲ思フコト切ニ君ヲ慕フコト深ク望ヲ將來ニ繫ケテ復高風ヲ仰カムコトヲ期セシニ圖ラサリキ茲ニ反ツテソノ靈ヲ迎ヘテ哀悼ノ辭ヲ捧クルニ至ラムトハ天若シ君ニ假スニ壽ヲ以テセハ其更ニ文教ニ裨益シ國家ニ貢献スル所蓋シ測リ知ルヘカラサルモノアラム而シテ其人今ヤ即チ亡シ嗚呼哀哉謹ミテ蕪辭ヲ陳ヘ弔意ヲ表ス尚クハ饗ケヨ

大正十三年八月十一日

大阪府知事從四位勳二等　中川望

弔辭

維大正十三年八月十一日懷德堂記念會近故文學博士西村碩園君ノ靈ヲ祭ル大阪市長法學博士關一謹ムテ哀ヲ紓ヘ靈ニ告ケテ曰ク嗚呼君惟レ當代ノ儒宗壇坫ノ巨擘ニシテ大阪人文ノ功勞者タリ君大阪ニ在リテ觚ヲ操リ報章ノ事ニ從フモノ三十年其力ヲ當代ニ效シ功ヲ斯界ニ樹ツルコト今尚ホ人ノ耳目ニ存ス又晩ニ同志ト謀リ懷德堂ヲ興ス初懷德堂考ヲ朝報紙上ニ掲クルヤ四方喧傳先ヲ爭フテ之ヲ讀ム浪華ノ人々ヲシテ緬カニ懷德堂ノ舊ヲ懷ヒ報本反始ノ禮ヲ修メ繁榮幸福ノ本先ツ其德性ヲ涵養スルニ在ルヲ知ラシメシモノ懷德堂考先正ヲ顯章スルノ力多キニ居ル懷德堂興リテ今ニ八年德性ヲ涵養シ學術ヲ普及シ以テ大阪ノ文化ニ貢献スルモノ君實ニ之カ原動力タリ竊カニ聞ク君季歲道ヲ信スルコト益々篤ク深ク心ヲ風敎ニ留メ慨然斯文ヲ振起スルヲ以テ任ト爲ス以謂ヘラク我カ國民道德敎育勅語之ヲ昭示シタマフ炳トシテ日星ノ如シ而シテ之カ註脚タルモノ聖經賢傳即チ是ナリ文敎ヲ翊贊スル所以ノ道亦唯之ヲ講明發揮スルニ在ルノミト懷德堂ノ興ルヤ自ラ進ムテ講師トナリ經ヲ執リテ堂ニ講スルモノ五年大正辛酉召命ヲ拜シ入リテ宮內省御用掛トナル朝廷ノ文字多ク君ノ手ニ成ル世人ヲ得タルヲ稱ス嗟君ノ若キハ通儒ト謂フヘシ方今海內ノ耆宿凋落幾ント盡ク是時ニ當リ又奄チ斯人ヲ喪フ痛悼曷ソ勝ヘン嗚呼哀イ哉神其レ知ルアラハ余カ中誠ヲ鑒セヨ

次の弔文等は時間なきを以て朗讀を省略し靈前に展ぜられしものなり

弔

文學博士西村君子駿文

大正十三年七月二十九日

文學博士西村君子駿卒于東京八月十一日歸葬大阪懷德堂記念會行喪禮於講堂　天生拜送奠弔文一篇

君好楚辭因用楚體云

哈羅八郡兮建國海陬多嶽峙立兮烟波縹緲歲在乙丑兮夫子脫胞風骨明嶷兮夙稱雋髦軀幹頎大兮眼如師豹客游人間兮爲天地囚嗚呼偉哉剛堅爲質兮性重名節稽古鑒今兮德音有酵何才藻之難抑兮況文辭之英發承父業於殁後兮拔群秀而穎出語俊爽而意達兮繼先師之衣

鉢於戲情性之富溢兮夫何辭弗修述起筆稗史兮極邦文之纖密右和而左漢兮粲參美乎黼黻思纏綿以幽遠兮乃激揚而縮瑟理瞻而辭精兮秉公論之闡守中而居正兮赫有如皦日文名上聞兮掌翰於　鳳闕規範訓誥兮循三代之遺轍辭若春露之滋兮豈有秋霜之烈嗟　夫子之學兮淳正而淵泓拾宋賢之落蘂兮仰紫陽之殘光考典據於書策兮寓道義於詞章翫華乎姚門兮憑軾乎桐城世降道微兮歎倫常之不明移風易俗兮莫善於尊賢聖探藝業於舊墟兮求德範於遺行論誨育之所依兮祭奠陰之先靈傷鄉庠之廢絶兮斯與懷德之嚮夫忠孝與仁義兮俾人閑邪嚮方　夫子逝兮文盟殫孰能繼其後塵人遠而言存兮文與德永弗諼　天子賜位兮死有榮顯恨游魂之難返兮茫吾望　靈轝之所徂嗚呼哀哉兮敬弔　子駿甫

中井天生　薫沐拜手

哀　辭

維大正十三年八月十一日長尾甲謹陳詞敢告于亡友西村君子駿之靈世之隆替因道弛張道之弛張繫人存亡。不由其道無明倫常不得其人孰維紀綱興道濟世今誰能當非學與德道何以彰

君少志道才拔鄉庠長遊大學志氣奮揚嵩目時難擊壺慨慷經國爲任振藻文場讜論諤々筆挾風霜以文行道道載文章景行前哲闡發幽光懷德墜緒於今復昌弘道興學易世不忘才德升聞結纓玉堂高文典冊堂構裔皇驥足將展衆具瞻望曷賦命悭崩頹山梁名哲罕匹蘭芝歇芳斯人之喪斯道之殃可爲世惜尤爲道傷況余同學哀切中腸永懷德音悵怨彼蒼烏乎哀哉

同學弟長尾甲再拜

弔　歌

西村博士のみたまのまへに　北里闌

そのかみはいふもさら也なに波かた
今なほ君におふところあり

尙ほ弔電弔詞を寄せられたるもの左の如し

在大礒　前文部大臣　中橋德五郎君

故西村先生の追悼祭に當り謹みて哀悼の意を表す

永田理事長宛

東京帝國大學教授文學博士　宇野哲人君

謹ミテ天囚先生ヲ弔ヒ奉ル

松山教授宛

在別府　日名子太郎君

謹ミテ西村先生ヲ追悼シ奉ル

永田理事長宛　有田溫三君

在廣島

敬弔哀悼白ス

追悼會宛

京都府知事　池松時和君

西村先生ノ告別式ニ際シ深厚ナル哀悼ノ意ヲ表ス

永田理事長宛

在須磨　神戸市長　石橋爲之助君

病中遙ニ弔意ヲ表ス

追悼會宛　水原堯榮君

在高野

遙ニ先生ノ英魂ヲ送ル

永田理事長宛

京都帝國大學教授法學博士　田島錦治君

謹ミテ紙上ヲ以テ敬弔之意ヲ表シ候

永田理事長宛

在蘆屋　元聽講生七十五歳　近藤義門君

悼新村博士

大君の御前にいてゝ文ときし
ほまれのぬしのいたましき哉

懷德堂宛

奈良縣北葛城郡瀨南村　吉村忠藏君

西村時彦大人の身まかりたまひしを聞きて
世のためにかくれし聖あらはしゝ
その功勳こそ尊かり介麗

懷德堂宛

弔詩

哭西邨碩園先生

不識先生親藥爐忽然訃至淚漣如晩途榮達登金闕蚤歲文名動海隅說此離騷眼分繭（先生曾著屈原賦說）草夫辭命筆聯珠替人誰是執詞翰大雅音沈奈聖謨曾因浩浩（浩浩歌客角田勤介余干先生）與君遊浩浩先亡不耐秋萬事入間易腸斷百年世境似漚浮隨陪雨宿日山閣（余曾與先生遊鳥羽日之山風雨遂宿一森氏別墅）招飲風談銀水樓（先生曾爲東道招飲余中洲銀水樓會者衣洲秋渚浩浩歌客牧野舒諸人）觀月今年筵可廢任他零露近中秋

大正十三年八月十一日

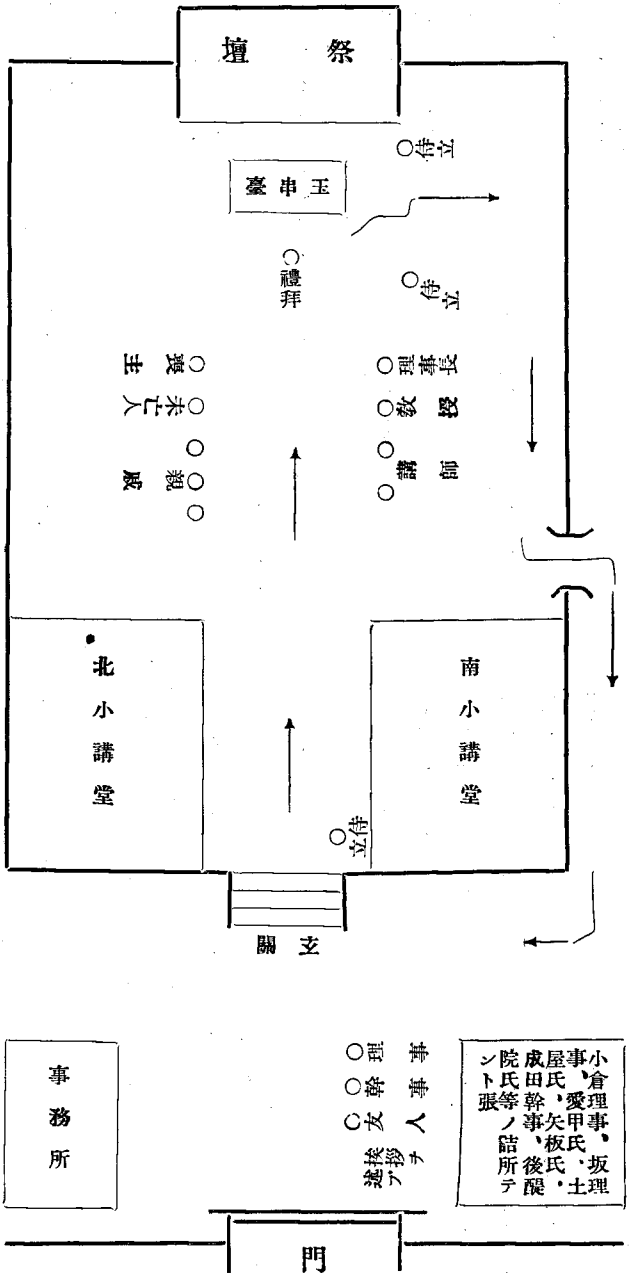
辱知生　駿河島田置鹽維裕　泣拜艸

告別式

午前八時半より十時に至る。

（式場畧圖左の如し）

式次の順序に依り理事長教授喪主遺族親戚記念會役員總代聽講生總代參列者等順次玉串を捧獻して追悼祭を終る。



午前十時告別式終了す。追悼祭及告別式に參列せし者懷德堂關係者と故人の交際ある者等を合せて約五百人なりき。

埋葬式

午前十時五十分、永田理事長、松山教授、岡田、野口兩委員祭壇に上り、岡田、野口兩委員奉安臺に就て、恭しく御遺骨を捧持し、理事長教授前後を護りて、祭壇を降り、玄關に至りて、御遺骨を喪主西村時敎氏に手交す。喪主御遺骨を捧持して、寺井祭主及外一名の神官と共に、自動車に乘る。

懷德堂關係者其他有志者一同門内に整列して、奉送す。

永田理事長、松山教授、記念會役員、堂友會總代、參列有志者等自動車にて同列、阿倍野墓地に向ふ。第一自動車には永田理事長、愛甲兼達殿、第二自動車には小倉理事、今井理事、武内講師、第三自動車には西村時敎氏御遺骨を捧持して神官二名と同乘し第四自動車には未亡人並に親戚三名、第五自動車には松山教授、狩野博士、成田幹事、財津講師、第六自動車には稻束講師、原田氏令孃、川上夫人、吉田夫人、第七自動車には小沼、岡田、野口、井上、平野の堂友會代表乘車し、其他有志の自動車と共に、十一時十分阿倍野墓地に着す。

埋葬の儀は主として西村家に於て行ふものにして懷德堂關係者は賓として之に參列せしものなり。

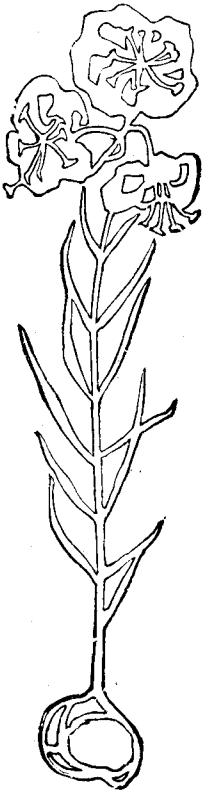
祭主の祝詞神官の獻饌等ありて、遺骨は壙志と偕に石室内に埋藏せられ、遺族親戚會葬者一同の手に依りて、淨土を蓋はれ、午後零時十分埋葬の儀完了す。

遺族及懷德堂關係者一同零時三十分前後に於て、懷德堂に歸還す。

午後一時、大講堂に於て、直會の筵を開く。今井理事より、追悼祭告別式埋葬の儀も、豫定の順序に依り、着々進行して、茲に滯り無く終畢を告げたれば、直會の筵を開きて連日の勞を慰する旨の挨拶あり。弓削田精一氏西村家を代表して謝辭を述べられ二時を過ぐる頃、遺族親戚は旅館に引取られたり。各委員は殘務を整理し、當日有志者より玉串料四十七口貳百貳拾參圓五拾錢と線香一箱氷貳百貫を獻供せられたれば、氷は直ちに式場に使用し、玉串料及

線香は委員飯島溜三郎之を携帶して、未亡人幸子刀自を旅宿に訪問し、交付せり。是に於て、諸事無滯終了し、委員一同退散せしは午後五時なりき。

附　記

八月十六日午後六時、永田理事長は委員一同を北濱灘萬ホテルに招待して、慰勞の宴を開かれたり。來會者二十七名なりき。宴酣にして、永田理事長の挨拶あり。

尙ほ西村先生との交際及其の勸說に因りて懷德堂記念會理事長となりし事などにつきて、種々追憶談あり。今井理事一同を代表して、謝辭を述べ、一同先生の舊を談じて、八時過退散せり。